

委 託 契 約 書 (案)

- 1 委託業務の名称
 県北農業研究所冷暖房空調設備等自動制御機器点検整備業務
- 2 履行期間
 令和7年4月1日から令和10年3月31日まで
- 3 委託業務の実施場所
 九戸郡軽米町大字山内 23-9-1
- 4 契約金額 金 _____ 円
 (うち消費税及び地方消費税額 _____ 円)
 (内訳)
 令和7年度 年額 _____ 円
 (うち取引に係る消費税額及び地方消費税額 _____ 円)
 令和8年度 年額 _____ 円
 (うち取引に係る消費税額及び地方消費税額 _____ 円)
 令和9年度 年額 _____ 円
 (うち取引に係る消費税額及び地方消費税額 _____ 円)
- 5 契約保証金 金 _____ 円

岩手県（以下「甲」という。）と ○○（以下「乙」という。）とは、上記の委託業務について、各々の対等な立場における合意に基づいて、次の条項によって公正な委託契約を締結し、信義に従って誠実にこれを履行する。

(総則)

第1条 乙は、甲から委託を受けた業務（以下「業務」という。）をこの契約書及び県北農業研究所冷暖房空調設備等自動制御機器保守点検整備業務仕様書（以下「仕様書」という。）に基づき、法令等を順守し、誠実に履行するものとする。

(実施に関する指示)

第2条 甲は、乙に対して、業務の履行に関して、その作業に立ち会い、又は必要な事項を指示することができる。

2 乙は、業務の履行に関し、必要があると認めるときは、甲の指示を受けるものとする。

(権利義務の譲渡等)

第3条 乙は、この契約により生ずる権利又は義務を第三者に譲渡し、又は承継させてはならない。ただし、あらかじめ書面により甲の承認を得たときは、この限りではない。

(再委託の禁止等)

第4条 乙は、業務の全部又はその一部の履行を第三者に委託し、又は請け負わせてはならない。ただし、業務の主たる部分以外については、あらかじめ書面により甲の承認を得たときは、この限りではない。

(仕様書等の変更、業務の中止等)

第5条 甲は、必要があると認めるときは、その内容を乙に書面により通知して、業務の仕様書等及び業務に関する指示を変更し、又は業務を一時中止させることができる。

2 前項の場合において、甲は、必要があると認められるときは、履行期間若しくは委託料を変更し、乙に損害を及ぼしたときは必要な経費を負担しなければならない。

(損害賠償)

第6条 業務の完了前に発生した損害（第三者に及ぼした場合を含む。）については、乙がその賠償額を負担する。ただし、甲の責めに帰すべき事由により生じたものについては、甲がその賠償額を負担する。

(完了報告及び検査)

第7条 乙は、業務を完了したときは、その旨を遅滞なく業務完了報告書により甲に通知しなければならない。

2 甲は、前項の規定による通知を受けたときは、通知を受けた日から10日以内に業務の完了を確認するための検査を完了しなければならない。

3 前項の検査に合格したときをもって、業務を完了したものとする。

4 乙は、第2項の検査に合格しないときは、直ちに修補して甲の検査を受けなければならない。この場合において、修補の完了を業務の完了とみなして前各号の規定を準用する。

(委託料の支払)

第8条 甲は、委託料を乙の請求により次のとおり毎月支払うものとする。

月額 ○○ 円

3 甲は、前項に規定する請求があったときは、請求を受けた日から起算して30日以内に委託料を支払うものとする。

(履行遅滞の場合における違約金等)

第9条 乙の責めに帰すべき理由により履行期間内に業務を完了することができない場合においては、甲は、違約金の支払いを乙に請求することができる。

2 前項の違約金の額は、遅延日数に応じ、年〇.〇パーセント（注1）の割合で計算した額とする。

3 甲の責めに帰すべき事由により、第9条第2項の規定による委託料の支払いが遅れた場合においては、乙は、未受領金額につき、遅延日数に応じ、年〇.〇パーセント（注2）の割合で計算した額の遅延利息の支払いを甲に請求することができる。

注1 令和7年4月1日において適用される会計規則第117条第1項で規定する違約金の徴収率とする

注2 令和7年4月1日において適用される政府契約の支払遅延防止等に関する法律（昭和24年法律第256号）第8条第1項の規定に基づく遅延利息の率とする。

(契約不適合責任)

第10条 甲は、乙が実施した委託事業に契約の内容に適合しないものがあるときは、乙に対し、履行の追完を請求することができる。

2 前項に規定する場合において、甲が相当の期間を定めて履行の追完の催告をし、その期間内に履行の追完がないときは、甲は、乙に対し、委託料の減額を請求することができる。

3 前2項の規定は、甲の乙に対する損害賠償の請求及び解除権の行使を妨げない。

(甲の催告解除権)

第11条 甲は、翌年度以降の発注者の歳入歳出予算において、この契約に係る予算の減額又は削除があったときは、この契約を解除することができる。

2 甲は、乙が次の各号のいずれかに該当するときは、相当の期間を定めてその履行の催告をし、その期間内に履行がないときは、この契約を解除することができる。ただし、その期間を経過した時における債務の不履行がこの契約及び取引上の社会通念に照らして軽微であるときは、この限りでない。

(1) 地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 221 条第 2 項の規定に基づき甲が行う調査を妨げ、若しくは同項の規定に基づき甲が求める報告を拒み、又は第 2 条の規定による甲の指示に従わなかったとき。

(2) その他この契約に違反したとき。

（甲の無催告解除権）

第 12 条 甲は、乙が次の各号のいずれかに該当するときは、直ちにこの契約を解除することができる。

(1) 不正の手段により委託料の支払を受けたとき。

(2) 乙が次のいずれかに該当するとき。

ア 役員等（乙が個人である場合にはその者その他経営に実質的に関与していると認められるものを、乙が法人である場合にはその役員、その支店又は常時契約を締結する権限を有する事務所、事業所等を代表する者その他経営に実質的に関与していると認められるものをいう。以下この号において同じ。）が、暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成 3 年法律第 77 号）第 2 条第 2 号に規定する暴力団（以下「暴力団」という。）又は同条第 6 号に規定する暴力団員（以下「暴力団員」という。）であると認められるとき。

イ 役員等が、自己、自社若しくは第三者の不正の利益を図り、又は第三者に損害を加える目的をもって、暴力団又は暴力団員の利用等をしていると認められるとき。

ウ 役員等が自己、自社若しくは第三者の不正の利益を図る目的又は第三者に損害を加える目的をもって、暴力団又は暴力団員を利用するなどしたと認められるとき。

エ 役員等が、暴力団又は暴力団員であることを知りながら、これを利用するなどしていると認められるとき。

オ 役員等が暴力団又は暴力団員と社会的に非難されるべき関係を有していると認められるとき。

カ 下請契約又は資材、原材料の購入契約その他の契約（以下「下請契約等」という。）に当たり、その相手方がアからオまでのいずれかに該当することを知りながら、当該者と契約を締結したと認められるとき。

キ 乙が、アからオまでのいずれかに該当する者を、下請契約等の相手方としていた場合（カに該当する場合を除く。）に甲が乙に対して当該契約の解除を求め、乙がこれに従わなかったとき。

（契約が解除された場合等の違約金）

第 12 条の 2 次の各号のいずれかに該当する場合には、乙は、委託料の 100 分の 5 に相当する額を違約金として甲の指定する期間内に支払わなければならない。

(1) 第 11 条又は前条の規定によりこの契約が解除された場合

(2) 乙がその債務の履行を拒否し、又は、乙の責めに帰すべき事由によって乙の債務について履行不能となった場合

2 次の各号に掲げる者がこの契約を解除した場合は、前項第 2 号に該当する場合とみなす。

(1) 乙について破産手続開始の決定があった場合において、破産法（平成 16 年法律第 75 号）の規定により選任された破産管財人

(2) 乙について更生手続開始の決定があった場合において、会社更生法（平成 14 年法

律第 154 号)の規定により選任された管財人

(3) 乙について再生手続開始の決定があった場合において、民事再生法（平成 11 年法律第 225 号）の規定により選任された再生債務者等

3 第 1 項の場合において、契約保証金の納付又はこれに代わる担保の提供が行われているときは、甲は、当該契約保証金又は担保をもって違約金に充当することができる。

4 第 1 項及び前項の規定は、委託料の支払があった後においても適用するものとする。
(契約解除の場合における損害賠償金)

第 13 条 甲は、第 11 条第 2 項及び第 12 条第 1 項の規定によりこの契約を解除した場合において、第 12 条の 2 の違約金又は契約保証金（契約保証金の納付に代えて提供された担保については、当該担保の価値）の額を超えた金額の損害が生じたときは、その超えた金額を損害賠償金として乙から徴収する。

(乙の解除権)

第 14 条 乙は、次の各号のいずれかに該当するときは、契約を解除することができる。

(1) 第 5 条の規定により仕様書を変更したため委託料が 3 分の 2 以上減少したとき。

(2) 第 5 条の規定による業務の中止期間が履行期間の 10 分の 5（履行期間の 10 分の 5 が 6 月を超えるときは、6 月）を超えたとき。ただし、中止が業務の一部のみの場合は、その一部を除いた他の部分の業務が完了した後 3 月を経過しても、なおその中止が解除されないとき。

(3) 甲がこの契約に違反し、その違反によりこの契約の履行が不可能となったとき。

2 乙は、前項の規定により契約を解除した場合において、損害があるときは、その損害の賠償を甲に請求することができる。

(契約解除に伴う委託料の返還)

第 15 条 乙は、第 11 条第 1 項及び第 12 条第 1 項の規定によりこの契約を解除された場合において、すでに委託料の支払がなされているときは、甲の定めるところにより、委託料を返還するものとする。

2 乙は、前項の規定により委託料を返還しなければならない場合において、これを甲の定める納期限までに納付しなかったときは、納期日の翌日から納付の日までの日数に応じ、年〇.〇パーセント（注 3）の割合で計算した延納利息を甲に支払わなければならない。

注 3 令和 7 年 4 月 1 日において適用される会計規則第 117 条第 1 項で規定する違約金の徴収率とする。

(不当介入に対する措置)

第 16 条 乙は、乙又はこの契約における下請契約等の相手方が暴力団等から不当要求又は契約の適正な履行を妨げる妨害を受けた場合は甲に報告し、及び警察にも通報しなければならない。

(施設の利用)

第 17 条 乙は、甲の許可又は承認を得て甲の施設及び設備を使用することができる。

2 甲は、乙に対して業務に必要な水及び電気を無料で提供するものとする。

ただし、乙はその使用にあたっては節約に努めるなど効率的な使用に留意しなければならない。

3 乙は、業務の実施にあたっては、甲が管理する施設、設備等を善良な管理者の注意

をもって取り扱わなければならない。

(秘密の保持)

第 18 条 乙の代表者又は使用人、従事者は、この契約の履行に関して知り得た秘密を他人に漏らしてはならない。

(補則)

第 19 条 この契約により難い事情が生じたとき、又はこの契約に疑義が生じたときは、甲、乙協議して定めるものとする。

この契約締結の証として、本書 2 通を作成し、甲、乙が記名押印し、それぞれその 1 通を保有するものとする。

令和 年 月 日

甲 岩手県
契約担当者
岩手県農業研究センター県北農業研究所長

乙 受託者